

朝倉地区

■5年前の地域課題の現状

課題	現状(5年前との比較) ←←悪くなっている よくなっている→→	理由
災害対策・体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨今の大規模災害により、個人の意識が高まり、自助・共助の重要性が認知されてきた。 ・ 高齢者にも避難の心構えができてきている。 ・ 防災無線の設置(2020年4月開始)が進められている。(有線は2020年3月廃止) ・ 避難所(水の上:朝倉地域住民学習センター)自体が危険。
ご近所付き合いの希薄化		<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣近所の情報はよくわかる。 ・ 独居高齢者については、民生委員の見守り訪問が徹底してきた。 ・ マルシェ、ひまわり畑の環境保全会などの活動を通して、関係づくりを図っている。 ・ 代がわりをするため、付き合いが希薄化してきている。 ・ 共通の話題がなくなった。 ・ 地域差がある。
少子・高齢化による担い手不足		<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化は仕方がない。児童館の利用数も5年前より半数になっている。 ・ 地域に若い者がいない。 ・ 農業後継者不足。 ・ 地域に働く場がない。 ・ リーダーがいなくなると、活動は衰退する。 ・ 高齢者が元気で頑張っている。
買い物や通院時の交通問題		<ul style="list-style-type: none"> ・ 車に乗れない人の交通手段がない。 ・ バスに乗る人がいない。デマンドバスを要望しているが実現は遠い。 ・ 生協などを利用している。 ・ 高齢者へのタクシー券の配布が欲しい。
環境・衛生問題		<ul style="list-style-type: none"> ・ 不法投棄は現在もある。

■新たな地域課題

- ①子どもや若い世代と接する機会が減っている。
- ②災害などの緊急時の対策について、地域内での共有ができていない。
- ③バスの乗り換えが不便。(通院時など)
- ④鳥獣被害や野良犬・猫の増加。
- ⑤Uターン者が「調整区域」によって家を建てにくく、郊外へ出てしまう。
- ⑥有線の廃止により、地域情報の取得が困難になっている。
- ⑦老老介護世帯の増加。
- ⑧伝統行事の衰退。
- ⑨耕作放棄。

玉川地区

■5年前の地域課題の現状

課題	現状(5年前との比較) ←←悪くなっている 0 よくなっている→→	理由
ご近所付き合いの希薄化		<ul style="list-style-type: none"> 昔ながら住んでいる人は、今も付き合いが続いている。 空き家が多くなった。 若い人は勤めているので、付き合いが希薄。 行事を通して若い人との付き合いができる。 回覧板を通じて話をしたりする。 参加する人はいつも同じ人。何度も誘うが断られると誘いにくくなる。
現状打破への意欲が少ない		<ul style="list-style-type: none"> 子供が少なく親も出て盛り上げないと成り立たない。 日ノ浦では、婦人会からもみじ会に名称を変え、活性化につながる。 地域差がある。 伝統行事が減った。いのこさんの歌も知らなくなっている。 各団体が頑張っている。美過疎通り、わらしし、グルメマラソンなど。 来る人は来るが、来ない人は来ない。罰金があるときは人が増える。
団体などの維持が困難		<ul style="list-style-type: none"> 一人の人が、いろいろな役を担っている。 若い人は団体を嫌う。(好きな人同士だけで集まったり、一人です) 自治会の交代時、次に当たりそうな人は会を休んでしまう。 亥の子や相撲などでは子供も参加するので、人が集まる。 することが多すぎる。
高齢者への対応		<ul style="list-style-type: none"> 認知症の方の課題の増加 高齢者のみの話し合いの場では、なかなか解決できない。 避難場所が遠いのはおかしい。近くで考えてほしい。 高齢者同士で支えあう必要がある。 老人クラブでは補助金を市から貰うが、書類の作成等が出来ない。
少子化と子どもへの対応		<ul style="list-style-type: none"> 交通が不便。仕事がない。→若い人が出て行く。 祭りのときは、神輿を担ぎに戻ってくる。 子供の減少が著しい。全然見ない。部活や習い事で忙しい。 龍岡の部落では子供が帰ってくるため、少ないが子供がいる。 ふれあい茶屋では、子供たちとおはぎ作りでふれあう機会をもった。 そうめん流しを通して、地域の子供たちとふれあう機会を計画した。 夕方まで児童クラブですごしたりしている。 去年から、お祭りに女の子も参加してくれている。(法界寺)

■新たな地域課題

- ①世代間交流の行事や集まりが少ない。
- ②地域の関わり方について、世代間で考えに差異がある。
- ③情報の共有が難しい。(資源ごみの分別など)
- ④老老介護の増加。
- ⑤神社仏閣の維持が難しくなっている。
- ⑥農業後継者がいなく、田畑が荒れる。
- ⑦イノシシやサルなどが増加。(鳥獣被害)
- ⑧空き家の増加。
- ⑨交通が不便。
- ⑩高齢者の交通事故が多い。
- ⑪40~50代の次世代を担う人を中心に、地域のことに無関心。
- ⑫自治会長になる人がいない。
- ⑬買い物難民が増える可能性がある。(車が乗れない人)

波方地区

■5年前の地域課題の現状

課題	現状(5年前との比較) ←←悪くなっている よくなっている→→	理由
買い物や 移動手段の問題		<ul style="list-style-type: none"> ・ なみっこ交流館で野菜販売、週1回とくし丸(移動スーパー)とパン屋さんが来てくれる。 ・ バス路線で波方回りができた。 ・ 養老にバスが来ない。タクシーを呼ぶ人が多く困っている。 ・ 車に乗れなくなった人が増えている。(今後も増える) ・ 補助バス等行政の支援が必要
地域の孤立や 閉じこもり		<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化の為、来なくなった人が何人かいる。 ・ 参加しない人はいるが、孤立はしていない。 ・ サロンができた。 ・ 若い人が閉じこもっている。 ・ 高齢化により外に出ない人が増えている。(身内の交流はある) ・ 参加者が高齢化している。 ・ 若い人の参加が増えない。 ・ 声かけしても参加しない。
地域の 担い手不足による 地域活動への影響		<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しみが必要 ・ 若い人が協力してくれない。参加してもらう方法を! ・ 地区の役員退任。消防団への加入。若者が少し、将来の人達がいらない。 ・ 老人クラブがなくなった(森上・養老)
災害への不安、 体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区のリーダーの養成が必要 ・ 5年前に比べると自主防災組織は増えている。具体的取り組みが必要。 ・ 関心や取り組みは広がった。 ・ 避難の呼びかけもしてくれるようになった。 ・ 全世代に関係。自分事として考えてくれやすい。
環境や衛生の問題		<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミの分別はかなりできているが、新しい分別の方法は知らない人もいる。 ・ ゴミ出しが大変な人もいる。 ・ ふたが重たい。 ・ 新しい家が建ち、分別ができている気がする。(養老) ・ 粗大ゴミを出しづらい。(→お助けさんへ)

■新たな地域課題

- ①近隣とのコミュニケーションが不足している。
- ②リーダーや担い手が不足している。
- ③自主防災組織自体よく理解されておらず、組織があっても実際の活動につながっていない。
- ④災害に対して危機感が薄い。
- ⑤地域活動への若者の協力が少ない。
- ⑥老人クラブがなくなった。
- ⑦若い人のひきこもりが目立ってきている。
- ⑧認知症の人の増加。(勉強会等が必要)
- ⑨イノシンなど鳥獣被害の増加。
- ⑩移動手段(高齢者の免許返納)
- ⑪高齢化、若者の減少、無関心により、自治会運営が大変になる。
- ⑫空き家の増加により治安が悪くなる。
- ⑬老老介護の増加。
- ⑭在日外国人とのつながり。(ゴミ出しのルールなど)
- ⑮耕作放棄地の増加。
- ⑯交通手段(養老)

大西地区

■5年前の地域課題の現状

課題	現状(5年前との比較) ←←悪くなっている 0 よくなっている→→	理由
通院や買い物など 移動手段の問題		<ul style="list-style-type: none"> ・車がないと生活できない。高齢者でも車の運転をやめられない。 ・車に乗れない人に対する対処が出来ていない。 ・車に乗り合わせて行く、タクシーの利用などの話を聞いた事がある。 ・困っているが、買い物に関しては移動販売車が来ている。 ・コンビニがなくなって不便になった人の声も聴く。 ・近所の人に「乗せて行って」は言いにくい。
地域活動の固定化や ご近所づきあいの 希薄化		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化で作業等参加できない方が増えてきた。 ・当番などの世話をすることを嫌がる人が出てきた。(市内中心から来た人)(九王) ・小組合を統合した。(宮脇町) ・新しく入居してくる若い人が小組合に入らない。 ・独居老人の増加。一人暮らしの男性の自治会脱退。
子育て支援の 体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・輪い和いの利用者が増えている。輪い和いが助けになっている。図書館があるので集まることができる。(他の小学校の子もきている) ・鴨池公園、藤山公園へ他の地域からも来ている。 ・各家庭がボランティア組織を知らない。(小学校 PTA) ・スタッフが少ない。不足している。 ・子供が少なくなったので地域での活動ができなくなった。(いのこ) ・共働きのため、お年寄り(おじいちゃん・おばあちゃん)が送り迎え。 ・小学校の夕方までの児童クラブの利用があるので地域ではあまりしていない。 ・輪い和いなどがあるが児童館はないので、児童館の要望の声を聞く。
災害への不安、 体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・消防が声をかけてくれ、防災キャンプ、マップがよくなってきている。(宮脇) ・民生委員さんと総代さんとの連携を。 ・要援護者の変更した情報、現状を把握できていない。 ・体制、組織づくりをもっと積極的に。 ・防災士を増やして意識向上を図っている。 ・小組合単位での防災訓練の実施が必要。 ・何度も(できれば毎年)避難訓練。近所の情報が大事。 ・普段からの近所付き合いが大切。 ・小部落で各家の情報を確認する。

■新たな地域課題

- ①地域の絆の希薄化。
- ②災害への不安。
- ③団体や地域活動の後継者がいない。参加者の減少。
- ④在日外国人とのつながり(ゴミ出しのルールなど)
- ⑤空き家の増加
- ⑥老老介護
- ⑦移動手段(買い物や通院)
- ⑧災害への不安
- ⑨家族のつながり(家族形態の変化)
- ⑩鳥獣問題
- ⑪空き家・土地の放置、管理
- ⑫障がいのある人への理解(就労)
- ⑬情報の伝達方法に対する不安(2020年3月に有線放送終了)

菊間地区

■5年前の地域課題の現状

課題	現状(5年前との比較) ←←悪くなっている 0 よくなっている→→	理由
病院や買い物の 移動手段の問題		<ul style="list-style-type: none"> ・ 深刻になっている。バスがなくなり、タクシーを利用している。 ・ 外出支援のバスが通行している ・ タクシー会社がなくなった ・ 店が少なくなった、専門店がなくなった(金物・文具・本) ・ 宅配サービスなどの利用がある A コープの営業時間が短くなった。
地域の孤立や 閉じこもり		<ul style="list-style-type: none"> ・ よそから帰ってきた人は、地域となじみたくないという人もいる。 ・ 閉じこもりがちの男の人も、デイに喜んで行くようになっている。 ・ 昼間にお年寄りの姿を見ることがない。(閉じこもり?) ・ 足腰が悪く外に出られない。サロン活動出なくなった
地域の 担い手不足による 地域活動への影響		<ul style="list-style-type: none"> ・ 婦人会などの活動も減ってきた。神輿・いのこさんをする人がいない。 ・ 商工会青年部は激減している。(地域活動の大切さを伝えなくては) ・ 加茂神社のお供馬のお手伝いが始まった。 ・ お祭りが小規模になっている。人数が少なくなっている。 ・ 草刈りなど、地域の環境などが少しずつ悪くなっている ・ 消防団員の定数割れが深刻。 ・ リーダー不足。(若者がいなくなった) ・ いのこができない、子みこしも減った。
災害への不安、 体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災組織がどこかわからず、できていない印象。 ・ 組織ができていない。 ・ 総代の負担が増える ・ 防災グッズをそろえたほうが良い ・ 山道が古くなって崩れやすいところが多い ・ 支所機能の低下、意識が低いので高揚を ・ 民生委員が要援護者に対して安全確認をしたい ・ 大雨災害で防災に対する意識が高まった。
空き家問題		<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋根の瓦・通学路のところは安全を確認してほしい。 ・ 空き家は増えている・放っている。 ・ 危険な空き家の解体以上に空き家が増えている。 ・ 借家や助成金のシステムを考えたらどうか。

■新たな地域課題

- ①災害に対する不安。
- ②地域活動の担い手不足。
- ③高齢者の閉じこもりの増加。(80歳以上)
- ④高齢者の運転危険(スピードを出す)
- ⑤車がないと生活できない。
- ⑥イノシシの増加、猫の放し飼いが多。
- ⑦若い人の減少。(雇用対策が必要)
- ⑧見通しがきかないところが多い。(道端の草木管理放棄、カーブミラーがない)
- ⑨世帯数の減少。
- ⑩高齢化が進み、地域のリーダーになる人がいない。
- ⑪田畑などの管理ができていない。

吉海地区

■5年前の地域課題の現状

課題	現状(5年前との比較) ←←悪くなっている 0 よくなっている→→	理由
地域行事、イベント、サロンなどの後継者問題		<ul style="list-style-type: none"> ・若い人が出ていき、高齢化が進み、後継者不足が深刻。 ・若者の意識が希薄で心配。 ・出歩くのが困難という方が多くなった。 ・サロンが近くにない。 ・地域のお祭りは若者が頑張ってくれている。 ・世話人も高齢化してきており、高齢者も施設入所などで減少する。 ・若い人に吉海や祭りを好きになってほしい。
地域の孤立や閉じこもり		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が増加し、サロンやイベントへの参加者が減少。 ・閉じこもり状態に近い人が増加(50~70歳男性が多い) ・自立している方が多いので、イベントやサロンに興味を示さない。 ・新しい人が参加しない。サロンに参加する顔触れが一緒に人数が減少。 ・イベントをしても人が集まりにくい。個人的なお茶会を企画すると喜んでくれます。 ・別居している家族が一人暮らしの親の見守りをしている。 ・閉じこもりだった人も病院に行って健康になってから、閉じこもらなくなった。
高齢者と若者の交流が少ない		<ul style="list-style-type: none"> ・土日にイベントをやることが多いが、休みたいと思う人もいる。 ・若者が行事に無関心。土・日に出かけてしまう。 ・へんろ市は食事を作るので大変と考えている人がいるのでは。 ・5年前とあまり変わらない。 ・お祭りにはびっくりする位いるが、他に交流の機会がない。 ・文化祭やお祭りの時に多くの老若男女を見かけて安心する。 ・年に1回だけ3世代交流のイベントあり。(保育園+サロン+婦人会)
災害への不安、体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・消防団などに所属している若い人が近所にいない。 ・不安は不安だが、防災への意識は高くなってきている。 ・年々、災害時の支援もできるようになっており、体制が向上している。 ・いろんな災害を想定しておくことが大切。 ・意識が高まっている時をチャンスと思って取り組む必要有り。

■新たな地域課題

- ①災害に対する不安の高まり
- ②地域の絆・つながりの希薄化
- ③集いの場の問題(若者と高齢者)
- ④空き家の問題
- ⑤バスがあまり停まってくれないので、買い物に困っている。
- ⑥地域の交流を持とうとしないセルフネグレクト予備軍のような人が増えている。対応に困っている。
- ⑦認知症の方が地域に増えたように感じる。
- ⑧高齢者の足腰が弱ってきて、外に出にくいと言う方が増えた。
- ⑨免許返納者に対する、交通手段が少ない。
- ⑩老老介護の問題。
- ⑪イノシシ等の鳥獣被害。
- ⑫空き家が増えて、近所つきあいが疎遠になってきている。
- ⑬交通が不便。特に買い物が難しくなっている。

宮窪地区

■5年前の地域課題の現状

課題	現状(5年前との比較) ←←悪くなっている よくなっている→→	理由
買い物や 移動手段の問題		<ul style="list-style-type: none"> 場所によって、良し悪しがある。 高速バスのバス停が、石文化しかしかない。 地元商店がなくなった。JA コープが今年で閉める予定。 移動販売が5年前から始まった。 車に乗れば、吉海に行く。 高齢化が進み、車に乗れない人や運転が危なくなった人が増えた。
「地域のつながり」の 希薄化の問題		<ul style="list-style-type: none"> 空き家が増えた。空き家で近所が遠くなった。 外国人の人が住んでいる。コミュニケーション取っている。 Iターンの人がいる。 老人会を立ち上げた。(余所国)
地域の 担い手不足による 地域活動への影響		<ul style="list-style-type: none"> 若い人が減ってきている。子供がいない。 人口減少で影響があるが、I・Uターンの人が積極的に参加している。 Iターン組が消防団に入って活動してくれている(友浦) 青年団の幅が狭い(25歳まで) 活動が続いている団体がある。ただ、衰退してきている。 楽しいことなら年齢関係なく出てくる まちのボランティアに3年前から来てもらって伝統行事存続。 お年寄りパワーでやっていくこともできる。
災害への不安、 体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> 防災研修を毎年行っており、自助・共助のことは少しずつ分かってきている。(友浦) 集会所に名簿を備えている。 部落総会で非難所を説明 他人事の人が多い。 避難の重要性を訴えている。 炊き出し訓練をしている。非常食を食べたり、各種体験をしている。
世代間で交流する 機会の減少		<ul style="list-style-type: none"> 婦人会・老人クラブなど、団体がやっぱり必要。 いのこさんをもう1グループ作って2つにした。(昨年から) まちなか探検隊(児童対象)、しめ縄づくり(小6)、昔のことを知ろう! という活動(小1、2)などを実施。

■新たな地域課題

- ①地域のつながりが減って、孤立や閉じこもりの問題が出てきている。
- ②商店の閉鎖や高齢化に伴う免許の返納で、買い物や移動手段に困っている。
- ③空き家の老朽化や放置(雑草・壊れて危険・火災などが心配)
- ④高齢化に伴い地域活動、特に清掃活動が難しくなってきた。
- ⑤イノシシやタヌキの増加。
- ⑥買い物や移動手段の問題
- ⑦地域の繋がりの希薄化
- ⑧集いの場の問題
- ⑨買い物の問題
- ⑩地域の繋がりの希薄化
- ⑪地域の孤立と閉じこもりの問題
- ⑫ごみの分別(回収されない袋の増加(余所国))

伯方地区

■5年前の地域課題の現状

課題	現状(5年前との比較) ←←悪くなっている よくなっている→→	理由
地域の孤立や閉じこもり		<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家が増え、5年前より住民が減少している。 ・ 独居老人等の問題は5年前と変化なし。今後は心配。 ・ 5年前はお年寄りだけの問題だったが、子育て世代にも広がっている。 ・ 出てこれない人(身体の問題)もいる。 ・ 子どもと同居の高齢者へは目が届きにくい。子どもの愚痴は外部に言いにくい。 ・ 商店がなくなり、買い物がより不便になった。(移動スーパーはある)
地域の担い手不足による地域活動への影響		<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い人が少ないし、いても子育てや働きに行っていて、活動してくれる人が少ない。それに高齢化している。 ・ 各団体の人数が減っている ・ 神輿をかく人がいない。祭りも一部落でやっていたのを二部落でやるようになった。 ・ 子どもの活動(亥の子、相撲)や月一清掃がなくなった。 ・ 後継者がいない。組長の順番がすぐ来て、若い人の負担が多くなってきている。 ・ 祭りの参加者が減少しているが、地区によっては外国実習生が参加。 ・ お大師さんのお接待に外国人が大勢くる。 ・ 自治会が機能していない。 ・ 民生サロンなど担い手がいなくて困っている。
災害への不安、体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・ 津波、浸水への不安が大きい。河川の整備に不安。 ・ 安全な避難場所がない。(小学校は津波×) ・ 避難所についてもっと行きやすい場所が欲しい。 ・ 備蓄がない。高齢者は備蓄をもって避難できない。 ・ 津波対策(テトラポッド防波堤)など災害への対策が不十分。 ・ 要援護者台帳の作成、周知が必要 ・ 緊急性の判断がイマイチ
買い物や移動手段の問題		<ul style="list-style-type: none"> ・ 橋の問題(交通費がかさむ) ・ 介護タクシーには乗れる人が限られている。 ・ 本当に困っている人には現在も変わらない。 ・ 買い物弱者が増えている。 ・ バスがない。タクシーも一台。自分で運転。

■新たな地域課題

- ①担い手不足により、地域活動が縮小している。
- ②少子化によって子どもの活動が減っており、関わる機会も少ない。
- ③店や病院が減り、今後の生活への不安を持つ高齢者が増えている。
- ④地域の孤立や閉じこもり
- ⑤地域の担い手不足
- ⑥津波などの災害に対する不安
- ⑦買い物や移動手段の問題
- ⑧空き家の増加。
- ⑨個人商店の減少。
- ⑩移動手段がない。
- ⑪外国人のマナーが悪い。
- ⑫少子化による子ども減少で地域事業ができにくい。
- ⑬サイクリストのマナーが悪い。交通問題。
- ⑭災害時の避難所が身近な所に欲しい。
- ⑮市内の病院へ行くのに親戚に頼みづらい。
- ⑯橋代が高い。(割引とか)
- ⑰病院に行くのが大変(お金、時間)
- ⑱独居は(高齢者は)通院買い物友人宅訪問も足がないのでままならない。
- ⑲介護タクシーがあればいい。高齢者を普通の車に乗せるのは大変。
- ⑳イノシシやタヌキの増加。
- ㉑災害時島外へ出られないのでは?(災害時など船の活用)
- ㉒地震などの災害対策(学校までの子どもの迎えをどうするか?道が寸断された場合。
- ㉓災害時の引き渡し。訓練の見直し
- ㉔福祉タクシー(タクシー)がない。

上浦地区

■5年前の地域課題の現状

課題	現状(5年前との比較) ←←悪くなっている よくなっている→→	理由
買い物や移動手段、交通の問題		<ul style="list-style-type: none"> 公共の乗り物の便が少なくなっている。 上浦交通、介護タクシーだけでは足りない シニアカーが増えてあぶない。 高齢化が進み、免許証を返納している人もいる。 店舗のなくなってきている。移動販売もあるが、そこに行くまでが大変。
高齢者の孤立や閉じこもり、高齢化		<ul style="list-style-type: none"> 老老介護、認知介護が増えている。 若い人の閉じこもりあり。 老人会という名前に拒否反応があって、閉じこもりになることもある。 民生の活動は孤立防止につながっている。 サービスのはざまにいる人の支援等の検討が必要。 施設、サービスは色々な取り組みは増えている。
地域の担い手不足による地域活動への影響		<ul style="list-style-type: none"> 人口不足で子どもの数も少なくなり、行事の維持が難しい。63~76歳が担い手として頑張っている。 高齢化のため組長をする人が少ない。 ボランティア連絡会は入る人より、辞める人が多い。 人数が減っても組が統合するのは難しい。 祭りのやっこが出来にくくなる。 盆踊りの保存会が継続している。 獅子の担い手が減っており、維持が難しい。 今は年齢や性別を問わず、祭りに参加している。
災害への不安、体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> 組長会で津波対策について話し合った。(7月災害後に話を行う。) 実際に災害が起こった時、どこを助けるか決めている。 情報の伝達方法を検討する必要がある。 地震が起きたら助かる方法がないような環境のところもある。
世代間交流の希薄化		<ul style="list-style-type: none"> 年1回交流会(子ども73人、大人53人)を実施。 子どもと地域住民の距離を縮めるために、声かけを行っている。 運動会や元気ふれあいフェスタなどを呼びかけて、積極的に交流の場を作ろうとしている。 身近な取り組みが大切(あいさつ、日常会話)

■新たな地域課題

- ①JAが閉店。買い物する場所の減少。
- ②想定していた災害対応の仕方では、豪雨災害では対応できない。(新たな対応が必要)
- ③買い物困難者の増加
- ④担い手不足による地域活動への影響
- ⑤災害に備えた体制づくり
- ⑥移動困難者の交通問題
- ⑦地域のつながりの希薄化
- ⑧高齢者の孤立や閉じこもり
- ⑨サロン・集いの場の課題
- ⑩野良犬、野良猫の増加

大三島地区

■5年前の地域課題の現状

課題	現状(5年前との比較) ←←悪くなっている 0 よくなっている→→	理由
買い物や ゴミ出し等の 移動手段の問題		<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉タクシーがあり助かっている ・ 高齢化に伴って、車の免許を返納した。 ・ コンビニができた。 ・ 地区に店がないので、移動販売店が来てほしい ・ 宮浦には店はあるが、他の地区にはない。 ・ 配達してくれるお店もある。
若者の減少・ 一人暮らしの 高齢者の増加		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区に働くところはない。 ・ 子どもが島外に出ると、親も一緒に出ることもある。 ・ 一人暮らしは増えている。 ・ 移住者が入っている現在、少し活気が出た。ボランティア(サロン)も手伝ってくれている。
地域の 担い手不足による 地域活動への影響		<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の増加により、地域活動(清掃など)が十分にできない。 ・ 婦人会を脱退している支部が多くなった。 ・ 伝承文化の後継者がいない。 ・ 祭のために地元の人が帰ってきてくれる。 ・ 地域間の横の繋がりが薄い(隣町) ・ 近所付き合いの希薄化。
災害への不安、 体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難の役を決めたことで安心に繋がった。 ・ 肥海では、消防の子が一人暮らし高齢者宅をまわる。 ・ 野々江は、大雨災害の時、連携して避難する体制がとれていた。 ・ 宗方は、災害時は総代場、婦人会、民生委員と老人クラブなど各種団体と連絡体制はできている。 ・ 災害時、支える側の高齢化が問題。 ・ 要援護者等の名簿作りが必要。 ・ 自主防災会が形だけになっているところもある。
空き家の管理の問題		<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家が増え、その周辺の雑木などが荒れている。 ・ 空き家の増加で近所が遠くなっている。(声掛けができない) ・ 空き家は犬や猫の住みかになっている。 ・ 倒壊の恐れがある空き家については、支所に整備されている空き家台帳をもとに所有者に連絡する仕組みはできている。 ・ Iターン者で空き家に入ってくれる人も少しはいる。

■新たな地域課題

- ①災害時の対策について地域格差がある。(がけ崩れ、水路詰まりの放置)
- ②既存の助け合いの仕組みを引き継ぐ人がいない。
- ③高齢・障がいのために買い物やゴミ出しなど生活に困っている人が増えている。
- ④災害に備えた体制づくり(地域の孤立・閉じこもり、支援を遠慮する人への対応、地域の繋がりの希薄化)
- ⑤担い手不足による地域活動への影響
- ⑥サロン・集いの場(環境整備、支援を遠慮する人への対応)
- ⑦老老介護
- ⑧耕作放棄地の拡大
- ⑨イノシシや犬などが家屋付近に出没してきた。(鳥獣被害)

関前地区

■5年前の地域課題の現状

課題	現状(5年前との比較) ←←悪くなっている よくなっている→→	理由
近所の 寄り合いが少ない、 コミュニティの弱体化、 世話人不足	<p>A horizontal bar chart with a scale from -4 to 4. The scale is marked with vertical lines and numbers. A red bar extends from the 0 mark to the -1 mark, with the number -1.0 written below it in red.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域によって差がある。 ・ 井戸が拠点になっている。 ・ 世帯数の減少により、家同士の距離ができた。 ・ 趣味の会ではコミュニケーションが取れている。 ・ 近所で雰囲気が違う。 ・ 高齢者が元気。
人口減少と高齢化で 地域活動ができない	<p>A horizontal bar chart with a scale from -4 to 4. The scale is marked with vertical lines and numbers. A red bar extends from the 0 mark to the -1 mark, with the number -1.0 written below it in red.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 祭りの担い手がない。 ・ 地域おこし協力隊、大学生のサポートがある。 ・ 気持ちは維持・・・
高齢化や 人口の減少の中、 地域でどう助け合っ ていくのか不安	<p>A horizontal bar chart with a scale from -4 to 4. The scale is marked with vertical lines and numbers. A red bar extends from the 0 mark to the -1 mark, with the number -1.0 written below it in red.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支え合う意識が高まってきている。 ・ 頼り合える関係がある。 ・ こうろくの意識が続いている。

■新たな地域課題

- ①多世代交流の場の減少、若い世代への誘致ができていない。
- ②要配慮者および避難行動要支援者に関する情報が更新できていない。
- ③学校、保育園の存続
- ④独居高齢者の増加
- ⑤医療体制の問題
- ⑥世話人不足
- ⑦働く場所の問題
- ⑧災害時要援護者の支援に対する課題
- ⑨災害に備えた体制づくりの課題
- ⑩医療体制の問題
- ⑪農業、行業の後継者不足
- ⑫無作農畑の管理
- ⑬鳥獣、野良猫の被害
- ⑭担い手不足による地域活動への影響

今治地区

■5年前の地域課題の現状

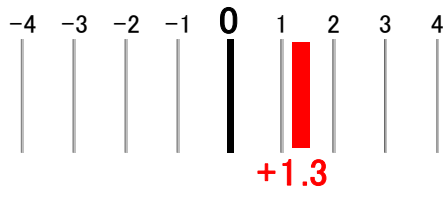
課題	現状(5年前との比較) ←←悪くなっている 0 よくなっている→→	理由
地域での 認知症高齢者・ 子どもの安全		<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の人は社協の支援や施設がある。独居の見守りもある。 ・ 地域包括支援センターと地域民生委員との連携が取れている。 ・ 認知症の人が増加する中で、周囲の人の理解は進んでいない。また、認知症を知られないようにしているので、よく分からない。 ・ 子ども見守り隊・パトロール普及ができてきている。 ・ 子どもを見守る方の高齢化や交代が問題。 ・ 児童の見守り隊活動、まもるくんの家などの活動は消極的になっている。学校からも積極的な働きかけがない
災害時の避難、 初期対応		<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難行動要支援者の登録及び毎年の更新がされるようになり、共助、公助の面で良くなっている。 ・ マップ作りもしたので、初期の取組を知ることが出来た ・ 独居高齢者の災害時対応が困る。 ・ 民生、自主防災も高齢化で、実際に災害が起こった時に活動が出来ない可能性がある。 ・ 要支援者情報の共有が必要。訓練の充実が必要。
地域の絆の希薄化		<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害対応の中で、お互いの結びつきの必要性を感じ始めている人もいる。 ・ 三世代交流の運動会、クロッケーの大会など、地域の人との繋がりが強い地域もある。(人間関係の強さは地域によって違いがある) ・ プライバシーの問題があり、踏み込みにくい。 ・ 高齢者が多く、行事を多く設けているが参加者が少ない。 ・ 広報などの負担が原因で自治会を辞める方が多い。 ・ サロンに出てこれない人をどうしていくかが課題。
多様化する個別課題		<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの係の人がいて、よくなっていると思う。 ・ 個人情報保護法により、情報が入ってきにくい。 ・ 色々な問題に対して、関わる人が縦割りで見守る体制が取りづらい。 ・ 家の中での問題に入り込めない。昔のおせっかいさんがいない。 ・ 地域の実情が見えてこない、分からない。 ・ 引きこもりを言わない人が多い。不登校などの情報が欲しいが、学校も教えてくれない。親が高齢で子供が引きこもりの家では他人に言わないので近所の人も見えて見ぬふりをするしかない。

■新たな地域課題

- ①団体間・世代間でつながる機会が少ない。
- ②地域活動や団体の担い手・後継者がいない。
- ③閉じこもりやひきこもりの人、心身に不調のある人との関係づくりやサポートが難しい。
- ④高齢者や障がいのある人への災害時対応が不十分だと思う。
- ⑤地域の絆の希薄化
- ⑥多様化する個別課題(高齢者、障がい者、低所得者、ひきこもり、ひとり親世帯など)
- ⑦ボランティア活動に参加協力する後継者問題。
- ⑧自治会や老人会等の高齢化及び後継者不足。
- ⑨少子高齢化が進み、年寄り>子ども
- ⑩外国人問題、マナーや火事の心配
- ⑪防災士の資格を持っている人が協力しない。
- ⑫お店が近くになく、高齢者が買い物に行けない。
- ⑬交通の便が悪い
- ⑭祭りの神輿を担ぐ人が高齢化している

地区

■5年前の地域課題の現状

課題	現状(5年前との比較) ←←悪くなっている よくなっている→→	理由
	 <p>A horizontal scale from -4 to 4. The scale is marked with vertical lines and numbers: -4, -3, -2, -1, 0, 1, 2, 3, 4. The number 0 is bolded. A red vertical bar is drawn from the 0 mark to the 1.3 mark. Below the 1.3 mark, the text '+1.3' is written in red. Above the scale, the text '←←悪くなっている' is on the left and 'よくなっている→→' is on the right.</p>	

■新たな地域課題

①